

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：32607

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770120

研究課題名（和文）中欧におけるベルギー象徴主義の受容研究

研究課題名（英文）Reception of Belgian Symbolism in Central European Context

研究代表者

三田 順（MITA, Jun）

北里大学・一般教育部・講師

研究者番号：20723670

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：シュテファン・ツヴァイクに代表されるウィーンの作家は、ベルギーの象徴主義作家としては直接交流を持っていたことでベルギーの多言語多文化的状況に通じていた。作家自らによるドイツ語への翻訳は、ベルギーの作家のドイツ語圏における知名度の向上に寄与しただけでなく、作家自身の詩作にも少なからぬ影響を及ぼしていた。また、象徴主義を受容した時代のスロヴェニアの作家たちは、当時彼らの首都であったウィーンで象徴主義に触れており、ウィーンという場がスロヴェニア近代文学の発展において重要な役割を果たしていたことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Austrian writers in Vienna have often maintained a friendly relationship with Belgian symbolists, which is why they were well in touch with the multi-lingual Belgian culture. The translation by Viennese writers contributed not only to the fame of Belgian writers in the German-speaking area but also to a considerable impact on their literary works. Slovenian writers at that period knew the latest literary aesthetics in Vienna so that the Viennese literary scene played an important role in the modernization of Slovenian literature.

研究分野：比較文学

キーワード：比較文学 ベルギー 象徴主義 スロヴェニア ウィーン オーストリア

1. 研究開始当初の背景

世紀末のフランスで誕生した象徴主義は隣国ベルギーで多様な展開を見せた。文学において主にマラルメ、ヴェルレーヌ等、詩の領域に留まったフランスに対し、ベルギーでは小説、戯曲において多くの作品が生まれ、言語を異にする諸外国においても広く受容される要因となった。

申請者はこれまで、ベルギー国内における象徴主義の受容について研究を行ってきた。新国家ベルギーのフランス語文壇は、言語を同じくするフランスに対して文化アイデンティティを獲得する為に、「北方性、ゲルマン性」を主張したが、この傾向は同じ国内でありながら言語を異にするゲルマン系文化の北部オランダ語圏ではではむしろ忌避されていた。他方、ドイツ語圏、とりわけ席転換期のウィーン文壇(ウィーン・モデルネ)においてベルギー(フランス語圏)象徴主義作品が積極的に受容されており、ベルギー象徴主義の何が、なぜ好まれたのか、彼らがフランス象徴主義とベルギー象徴主義の差異をどの程度認識していたのかに興味を抱き、本研究を着想するに至った。

さらに、当時ウィーンを首都とするハプスブルク帝国の中で勃興していた非ドイツ系民族文学において特にスロヴェニア文学において象徴主義は重要な位置を占めていることに着目し、ウィーンのドイツ語作家との受容の差異の有無に着目した。

2. 研究の目的

(1) ウィーン・モデルネは、ドイツの世紀末文化の中心を担ったベルリン・モデルネ、ミュンヘン・モデルネと比して、象徴主義一般の受容に積極的であったことに加え、ベルギーの作家との直接的な交流も盛んであった。その背景を探るに辺り、ドイツ語の文芸誌、新聞における各言語文学の翻訳紹介状況の調査がまず必要となるが、当時オーストリアにおいてもドイツの文芸誌は日常的に入手可能であり、オーストリアの作家がドイツで作品を発表するのも一般的であったため、「オーストリアの文芸誌、新聞における紹介」=「オーストリアでの受容」とは見なせず、このアプローチからドイツとオーストリアでの受容状況を正確に把握することは難しい。その具体的な考察では個々の作家への影響関係に重点を置き、批評、書簡資料から各作家がベルギー象徴派をどのように評価していたかを分析すると共に、その文学作品における影響を分析する。

(2) スロヴェニア・モデルネを代表する象徴主義作家、イヴァン・ツァンカルは十年に及んだウィーン時代に象徴主義に移行しているが、社会批判を含むその作風はウィーン・モデルネの作家とは大きく異なっている。ツァンカルが当時帝国内で被支配層であったスロヴェニア人であり、ウィーンの貧民街で厳しい生活を目の当たりにしていたこと、そ

して当時盛り上がりを見せていた南スラヴ運動に参加していたことが考えられるが、ベルギー象徴主義もまた、社会主義、民族主義と結びついていた点でフランス象徴主義に対する独自性を有しており、彼がどの程度フランスとベルギーの差異を認識していたのかを分析すると共に、ウィーンにおけるベルギー象徴主義の受容との差異を比較検討する。

3. 研究の方法

初年度は、オーストリア、およびスロヴェニアにおけるベルギー象徴主義の受容史についての調査を完了する。現在遂行中の研究を通して得られた知見を生かし、各言語によるベルギー象徴主義文学がどのように各地域に受容されていたかを雑誌での紹介、翻訳出版状況を把握する。

(1) ベルギー・フランス語文学については、ドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイス)で翻訳出版、および文芸誌で紹介されたフランス語文学の網羅的研究『Bibliographie deutscher Übersetzungen aus dem Französischen, 1700-1948』(1950-1953)の情報を主な分析対象としている。ここでベルギー象徴派の作家について得られた情報については、すでに原典に当たり大部分の裏付けを得ているが、ここから漏れたものが無いかもウィーンの水芸誌を中心に調査する。オランダ語文学の受容状況については Herbert van Uffelen の研究『Moderne Niederländische Literatur im Deutschen Sprachraum 1830-1990』を基に調査を進める。

(2) スロヴェニアについてはドイツ語圏のような先行研究がないため、有力な文芸誌におけるベルギー象徴主義文学の紹介状況を研究者自身が網羅的に調査する必要となる。その際、世紀末の代表的な文芸誌『Ljubljanski zvon』を中心に調査をし、翻訳出版されたものについても、現地のフランス語、オランダ語各文学の専門家、およびアーカイブ(スロヴェニア学術芸術アカデミー)の協力を得ながら資料の整理を行う。

次年度は前年度の調査により得られた情報を基に、まずフランス象徴主義とベルギー象徴主義の差異が各地域の受容に際してどの程度認識されていたのかを明らかにしつつ、ドイツとオーストリアにおける受容の温度差の背景を分析し、その要因を探る。

最終年度は、イヴァン・ツァンカルにおけるマーテルランクの影響を主な考察対象しながら、オーストリアとスロヴェニアにおけるベルギー象徴主義文学の受容を比較検討し、その差異を分析する。尚、成果は関連学会での発表と論文の形で随時発信して行く。

4. 研究成果

世紀転換期の中欧、特にオーストリア帝国の首都であったウィーンと、当時そのオース

トリア帝国の支配下にありながら、自立的な近代文芸の誕生しつつあったスロヴェニアの文壇におけるベルギー象徴主義の受容状況を明らかにするにあたり、初年度は基礎調査を主に行うことを予定していたが、一定の成果も形にすることができた。計画通り、まずはウィーンによる受容状況の調査を行い、ベルギー象徴主義文学を代表する作家達のフランス語作品が同時代のドイツ語圏でどの程度翻訳紹介されていたのかを調査し、そこで好まれた作家、紹介された作品や、ジャンルとしては散文が好まれていた傾向を把握することができた。他方、翻訳状況のみの分析では、ドイツ、オーストリア、さらにはスイスと言った「ドイツ語圏」全体での受容状況を把握するに留まることに加え、当時のドイツ語圏の作家たちは一様にフランス語に堪能であり、フランス語文学は原書で読むことのほうが一般的であったため、本年度後半から個々の作家における受容研究へとアプローチを修正した。そこでまず、自ら翻訳者としてベルギー象徴主義文学の紹介に携わったウィーン・モデルネを代表する作家シュテファン・ツヴァイクを取り上げ、彼が残した豊富な書簡資料を手がかりとして、彼がベルギーという国とその複雑な文化状況をどの程度理解していたのかを調査した。その成果の一部はベルギーで行われた研究会で発表し、ツヴァイクが特に好んで翻訳を行ったエミール・ヴェラーレンとの交友や、詩人についての文学論からは、ツヴァイクがベルギーの多言語多文化状況をよく理解していたことが伺えること、また彼のドイツ語訳がドイツ語圏におけるヴェラーレンの知名度の向上に大きな役割を果たしたと共に、翻訳行為がまたツヴァイク自身の詩作に肯定的な影響を与えたことを指摘した。

スロヴェニアにおける受容については文献調査を中心にを行い、世紀転換期のスロヴェニアにおける文壇状況の理解、および後に国民的作家と評価される象徴主義作家イヴァン・ツァンカルと外国文学との関わりについて調査を進めた一方で、「スロヴェニア文学の外国における受容」をテーマとして2014年11月にリュブリャナ大学で開かれた国際シンポジウムでは、日本におけるイヴァン・ツァンカルの受容について研究発表する機会を得、その成果を論文の形で発表することができた。

次年度は引き続き文献収集を行いつつ、各地における象徴主義受容の背景を整理した。また、本研究テーマの重要な先行研究に位置付けられる、スロヴェニア近代文学におけるウィーン文壇の役割を論じたスロヴェニア語論文を翻訳し紀要に掲載した。また、ベルギー象徴主義の他国での受容を考察する中で浮かび上がってきた、ベルギーの象徴主義文学をベルギーたらしめている独自の性質を整理すべく、象徴主義という美学に内在している「幻想性」を検討し、ベルギーにお

ける「幻想」の系譜を、象徴主義受容と共に登場し、ベルギー的アイデンティティーと結びつけられて行くことになる「現実的幻想」という美学を手掛かりに考察した。これによって象徴主義の時代の前後におけるベルギー文化のアイデンティティーの所在、その変遷を明らかにすることができ、その成果である論文「ベルギーにおける「現実的幻想」の系譜 文学と絵画における「ベルギー的」美学の源泉を求めて」を収め、自身が編者を務めた論集『ベルギーを 見る テクスト 視覚 聴覚』を11月に刊行することができた。この中では特に、ベルギーの文学においても、絵画の伝統がアイデンティティーの核となっており、特にその写実的表現に「ベルギー性」が指摘された一方で、象徴主義の時代に登場した「幻想性」が、新たなベルギーのアイデンティティーとして浮上したことを指摘し、ベルギー象徴主義に「現実的」な「幻想」という独自の美学が生まれたことを明らかにしている。この考察を通じて、この「幻想美学」と第一次世界大戦以降にベルギーの各言語圏で次々と生れた「幻想文学」との関連に関心を抱き、新たな研究課題として今後研究を進めていく予定である。

最終年度は、これまでのアウトプットに重きを置き、年度前半に成果の一部を国日本比較文学学会全国大会、およびウィーン大学で度開催された国際比較文学学会で発表した。その後、発表を基にした論稿を日本比較文学学会の学会誌に掲載した他、国外の学会誌への投稿も予定している。ベルギー的象徴主義の他国における受容については、個々の作家研究へとアプローチを変更していたが、本年度は中でもベルギーのフランス語圏とドイツ、オーストリアのドイツ語文壇において独仏二言語で創作活動を行ったベルギー人詩人ポール・ジェラルディーに焦点を当てて調査、研究を行い、その成果を論文として学内の紀要に発表した。そこでは、これまで単にフランス生まれの象徴主義とドイツ語圏文学との媒介者としてのみその重要性を評価されていたジェラルディーのベルギー・アイデンティティーの所在と彼の詩作品において「ベルギー」的特質がどの程度指摘できるのかを検討した。

その他、本研究課題に取り組む中で、企画、編集を務めて制作を進めていた、ベルギー・フランス語圏における象徴主義を含む「幻想文学」の翻訳アンソロジー『幻想の坩堝 ベルギー・フランス語幻想短編集』を12月に刊行した他、スロヴェニア文学の翻訳（紀要および小冊子の形態で発表）、および自身が日本語字幕を担当した映画上映会などを通じ、研究成果の一部を広く社会にも発信することができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

三田順、ワロニーにおける象徴主義受容と北方的象徴主義美学の形成 エクトール・シェネー『ものの魂』を手掛かりとして、比較文学学会誌、59巻、2017、66-81頁(査読有)

三田順、境界地の作家ポール・ジェラルディーとドイツ語詩 ベルギー・ドイツ語文学における象徴主義、北里大学一般教育部紀要、22、2017、1-16頁(査読有)

三田順、ワロニーにおけるアンティミスム絵画 ヴェルヴィエ派と「北方的」象徴主義絵画、北ヨーロッパ学会誌10、2014、pp. 53-65頁(査読有)

〔学会発表〕(計5件)

三田順、'La réception du symbolisme en Belgique. Le « mythe nordique » et l'identité wallonne,' 21st World Congress of the International Comparative Literature Association, 26th July 2016, University of Vienna, Austria. 国外：ウィーン(オーストリア)

三田順、ワロニーにおける象徴主義受容と北方的象徴主義美学の形成 エクトール・シェネー『ものの魂』を手掛かりとして、日本比較文学学会全国大会、2016年6月19日。国内：東京大学(東京都目黒区)

三田順、エクトール・シェネーとものの魂、ベルギー研究会、2015年12月19日。国内：福岡大学(福岡県福岡市)

三田順、ベルギーにおける幻想の系譜とフランス・エレンス、ベルギー研究会、明治大学、2015年7月26日。国内：明治大学(東京都千代田区)

三田順、"La Réception du symbolisme belge à Vienne. Le Cas de Stefan Zweig" ベルギー研究会ブリュッセル国際大会、2015年3月4日。国外：ブリュッセル(ベルギー)

〔図書〕(計3件)

岩本和子/三田順編訳、幻想の増埒 ベルギー・フランス語幻想文学アンソロジー、松籟社(328頁)、2016年12月、担当箇所、フランス・エレンス「分身」、ジャン・レイ「夜の主」

三田順編著(他五名)、ベルギーを視る、松籟社(184頁)、2016年、担当箇所、前書き、および「ベルギーにおける「現実

的幻想」の系譜 文学と絵画における「ベルギー的」美学の源泉を求めて、43-72頁

三田順 "Recepcija slovenske književnosti na Japonskem," in Alenka Žbogar (ed.). RECEPCIJA SLOVENSKE KNJIŽEVNOSTI. (947頁) Ljubljana: Znanstvena založba Filozofske fakultete, 10. 2014, pp. 289-297,

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三田 順 (MITA, Jun)
北里大学・一般教育部・講師
研究者番号：20723670